

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																							
九州医療スポーツ専門学校		平成20年3月31日	中村 潤	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 (電話) 093-531-5331																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人国際学園		昭和34年10月13日	水嶋 昭彦	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号 (電話) 093-531-5331																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	アスレティックリハビリテーション・ スポーツトレーナー学科		平成27年文部科学省 告示第13号	-																						
学科の目的	専門職に必要な知識・技能を教授することにより、地域医療の一端を担い、安全なるスポーツ活動のサポートを通して国民の健康増進に貢献する有能な人材を養成することを目的とする。																										
認定年月日	平成29年2月28日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	夜間	88	66	0	22	0	0																				
単位時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
60人	44人	0人	6人	21人	27人																						
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 出席率、終講試験の結果																						
長期休み	■春期：3月1日～4月10日 ■夏期：8月11日～8月15日 ■冬期：12月23日～1月5日			卒業・進級条件	【進級条件】 学則に定められた単位を修得すること。ただし、1年次の未修得授業科目が3科目以内であれば、2年次に仮進級を認める。 【卒業条件】 学則に定められた単位をすべて修得していること。																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 保護者連絡および個別面談を実施			課外活動	■課外活動の種類 長崎街道歴史発見ウォーク、学園祭、専門学校体育大会 ■サークル活動：有																						
就職等の状況(※2)	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療機関、フィットネスクラブ、その他 ■就職指導内容 キャリアサポートセンターによる就職指導 ■卒業者数：22人 ■就職希望者数：10人 ■就職者数：10人 ■就職率：100.0% ■卒業者に占める就職者の割合：45.5% ■その他 卒業者に占める就職者以外の者：12人(54.5%) (内訳) 在学：10人(本学科と併学していた医療系学科就学継続) 進学：1人(医療系専門学校への進学) その他：1人(家事手伝い) (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)(※3)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスレティックトレーナー</td> <td>③</td> <td>22</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>トレーニング指導者</td> <td>③</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>障がい者スポーツ指導員</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	アスレティックトレーナー	③	22	7	健康運動実践指導者	③	20	20	トレーニング指導者	③	22	22	障がい者スポーツ指導員	③	13	13
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
アスレティックトレーナー	③	22	7																								
健康運動実践指導者	③	20	20																								
トレーニング指導者	③	22	22																								
障がい者スポーツ指導員	③	13	13																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日時点において、在学者46名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者44名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 年度内に3回の教育相談週間を設けて学生との個別面談を実施している。			中退率	4.3%																						

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有          全国高校総体、国民体育大会出場またはそれに準ずる大会出場経験や、プロスポーツまたはアマチュアスポーツにおいて活躍実績のある者。入学金及び授業料を、実績に応じて20万円～全額を免除。          ■専門実践教育訓練給付：非給付対象          ※前年度給付実績者数          前年度給付実績なし。</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：無</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.kmsv.jp/trainer/">https://www.kmsv.jp/trainer/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの必要性・重要性の理解が進むに連れ、トレーナーに期待されるニーズもより深化している。そこでトレーナーに対する最新のニーズについて教育課程編成委員会を通して関連する企業や団体から提案してもらい、それらを学科のカリキュラム等に反映させることで職業教育の水準向上を図ることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校は、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、病院、企業、大学等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を含む。)に活かすことを目的に学科毎に教育課程編成委員会を設置する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 潤	九州医療スポーツ専門学校 校長		
西田 真紀	九州医療スポーツ専門学校 副校長		
中島 喜代彦	九州医療スポーツ専門学校 副校長		
味村 吉浩	九州医療スポーツ専門学校 教務部長		
寺本 敦司	九州医療スポーツ専門学校 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 学科長		
堀内 担志	九州共立大学スポーツ学部 教授	H29年4月1日～H31年3月31日	①
阿部 正則	株式会社タカミヤ さわらびF&Cクラブ マネージャー	H29年4月1日～H31年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

6月と11月の年2回。但し、開催の必要があると委員が判断した場合は、委員長に開催を願い出ることができる。

(開催日時)

第1回 平成30年 6月11日 15:00～17:00

第2回 平成30年11月ごろを予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会で提起された主な意見

- ① 全ての科目が必須科目になっているが、選択科目も採用することの検討。
- ② 老人施設など一般の方々と接する実習を取り入れること。
- ③ 健康寿命の格差に対処できる学生の育成。
- ④ 中途退学等に対する対策を考えるべきである。
- ⑤ オリンピックに携われるような企画などを学校自体で、思い出に残るような教育の組入れ。

提起された意見に対する対応

- ① 専門士の称号取得のため1,700時間の授業時数を確保している。選択科目を採用することで、卒業後、多方面なスポーツ業界への就職を検討していけるような科目の開設を検討したい。
- ② 今後のスポーツトレーナーの可能性を探るにあたり、生活習慣病の予防、介護予防などの現場がどのようなものになっているのかを把握する必要性はおおいにある。よって、さまざまな医療現場でどのような運動指導が行われているのかを把握し、見学実習に該当する医療施設の検討をしていく必要がある。
- ③ 健康寿命の延命に対し、トレーニングの必要性を見直していきたい。その中で、正しいトレーニング知識、正しいフォームの指導ができる指導者の養成が必要である。
- ④ 本学科では年3回の個人面談を実施しており、学生らが有意義に学校生活を過ごせるように悩み、不安などのヒアリングを実施している。個人面談も学科教員全員で面談を実施し、その面談内容については学科会議で教員内で情報共有している。
- ⑤ 現在、学科では北九州マラソン、紫川フェスティバルなどでの実習を実施している。そういったスポーツイベントに参加することで、スポーツイベントを支えるという経験は既に実施している。ただ、そういったスポーツイベントを今後も継続していくことと、新規スポーツイベントの開拓をしていく必要がある。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等にあたる専任教員には、前線で活躍している臨床経験豊かなスポーツトレーナーを選定する。専門科目の授業の一部を担当する外部講師の選定に当たっては、スポーツトレーナーとしての実践経験豊富な者を選定する。総合実習をはじめ、実技・演習などは、できる限り実践の場ないしは実践を想定した環境にて行う。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業等と連携して行う科目として、コンディショニング2・3が挙げられる。実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして指導経験豊富な教員に出講依頼している。担当教員とは、業界で必要とされる人材、今後の動向についての意見交換を行っている。将来、学生らがスポーツ現場で必要とされる人材の育成を第一の目標として、企業等との連携を図っている。

### (3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンディショニング2	外部の大学より専門家を招いてストレッチング、テーピング、コンディショントレーニングについて実習を行う。	久留米大学
コンディショニング3	コンディショニングの専門家により、トレーニング指導者として安全かつ効率的に陸上トレーニングと水上トレーニングができるようになる実践力を獲得することを目的とする。	きよた鍼灸院

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校の教育目標達成のために必要な教員の研修・研究支援を積極的に推進する。そのための教職員研修規定を設けている。支援の内容を、学生教育に資することと各教員の専攻する専門領域の学究に資することとに大別する。学生教育に資することとして、教育力向上が期待できるさまざまな研修会への参加や学会への入会が想定される。同時に医療施設や介護施設の現場研修等を通しての最新の現場現状の把握などが想定される。教員の専門領域の学究に資することとしても、前述と同様なことが想定される。本校のFD (Faculty development) の一環として、学生教育に資することを目的に外部講師による講義やワークショップを行う。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年 4月23日 第29回JATI九州・沖縄支部ワークショップ(日本トレーニング指導者協会 九州・沖縄支部)  
 平成29年 9月 3日 第30回JATI九州・沖縄支部ワークショップ(日本トレーニング指導者協会 九州・沖縄支部)  
 平成29年10月22日 第2回福岡県スポーツ指導者研修会(日本体育協会)  
 平成30年 1月28日 平成29年度公認アスレティックトレーナー連絡会議 九州ブロック研修会  
 (公認アスレティックトレーナー九州ブロック連絡協議会)

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年 8月26日 介護予防指導者向け・スキルアップセミナー(SOURCE OF SPIRITS)  
 平成29年11月18日～11月19日 平成29年度公認アスレティックトレーナー専任教員講習会(日本体育協会)  
 平成30年 1月24日 人権を考える企業のつどい(北九州市)  
 平成30年 2月 3日～ 2月24日 2017年度公益財団法人日本サッカー協会公認C級コーチ養成講習会Ⅲコース  
 (日本サッカー協会)  
 平成30年 3月20日 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会(健康・体づくり事業財団)

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

平成30年 6月14日～ 6月16日 第10回JOSKAS 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会  
 (日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会)  
 平成30年11月 2日～11月 3日 第29回日本臨床スポーツ医学会学術集会(日本臨床スポーツ医学会)

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

平成30年 8月27日 日本スポーツ協会アスレティックトレーナー専任教員ミーティング(日本スポーツ協会)  
 平成31年 1月 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー連絡会議  
 (日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー九州ブロック連絡協議会)  
 時期未定 NPO法人JATI九州・沖縄支部ワークショップ(日本トレーニング指導者協会 九州・沖縄支部)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を推進するために、学則第30条の(7)及び細則第76条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役員・高等学校の校長・同窓会役員の学外関係者のみで組織し、学内組織である「自己点検・自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討・協議することを責務とする。本校は学校関係者評価委員会からの提言等をもとにより良い学校を訴求していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム
(3) 教育活動	業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準、指導体制
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、社会的活動
(5) 学生支援	就職・進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、保護者連携他
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習等、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考基準、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準、個人情報、自己評価と公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校教育資源の活用、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で提起された主な意見

- ① (学校運営)情報システムに関して強化が必要である。
- ② (教育活動)授業評価アンケートは年2回行い、前回と見比べてみると良い。
- ③ (学修成果)資格試験の合格を目標に円滑に行えば良いと思う。
- ④ (学生支援)面談やカウンセリングを行い中途退学者を少なくすること。
- ⑤ (教育環境)インターンシップは全学科を対象に行うのが良い。
- ⑥ (学生の募集と受入れ)入学から在学中、卒業までを管理して募集に活かしていくべきである。
- ⑦ (社会貢献)地域貢献、地域連携を大切にするためにもボランティア活動に参加し、北九州市との結びつきを大切にすべきである。

提起された意見に対する対応

- ① 情報システムの専門家を雇用して、セキュリティの厳しいシステムをもって対応する。
- ② 年2回実施する方向で検討する。
- ③ 各学科における資格試験対策の取組みについて情報共有を図るとともに、学科間で協議してより効率的な試験対策が実施できるように模索する。
- ④ クラス担任による面談や学校カウンセラーによるカウンセリングの機会を設ける。
- ⑤ 学科ごとに臨地臨床実習や現場実習などを採用しているが、視野を広げた実習を模索する。
- ⑥ 入学から卒業後も管理できるシステムの導入を検討する。
- ⑦ ボランティア活動にはすでに参加しているが、今後も積極的な参加を継続していく。北九州市とは平成29年5月、スポーツの振興等に関する包括連携協定を締結し、同市との結びつきを図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
堀内 担志	九州共立大学(特別客員教授)	H29年4月1日～H31年3月31日	関係団体役員
久保 英二	福岡県立北九州高等学校(校長)	H29年4月1日～H31年3月31日	校長
大森 弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会(会長)	H29年4月1日～H31年3月31日	同窓会会長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL : <https://www.kmsv.jp/publication/>

公表時期 : 9月末

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では平成22年度より学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員にフィードバックすることをもって自己点検・自己評価と位置付けてきたが、今後はそれを前述の4.の(2)専修学校における学校評価ガイドラインに準拠した内容にまで拡げ、そのすべての結果を本校の学校関係者評価委員会に提示する。学校関係者評価委員会で検討・協議してもらった上での提言内容に対する本校ならびに学科の見解ならびに対処等については、本校のホームページ等で企業等の学校関係者に対して情報の提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、学校の特徴、施設設備、教育目標及び授業実施計画、校長名、所在地、連絡先等、その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	学科紹介、資格取得内容、シラバス、募集要項(選考方法と募集定員)
(3)教職員	教員情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組、実技・実技等の取組、就職支援等の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	指定寮及びアパート等紹介、学生相談、就学支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表
(9)学校評価	自己点検自己評価・学校関係者評価委員会評価・外部評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	国家試験合格率

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL : <http://www.kmsv.jp/>

(別途、以下の資料を提出)

\* 情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	ミムラ ヨシヒロ	所属部署	教務部
	氏名	味村 吉浩	役職名	部長
	所在地	〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1番2号		
	TEL	093-531-5331	FAX	093-531-5332
	E-mail	y-mimura@kmsv.ac.jp		

(備考)

・用紙の大きさは、日本工業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7についても同じ。)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スポーツ社会学	スポーツとの社会のかかわりが深まる時代において、スポーツ指導者はそのことを理解し、スポーツ普及のあり方がどのように進んでいくのかを考えていく。その中で、スポーツの社会的意義、在り方について理解する。	1前	16	1	○			○	○			
○			スポーツ経営学	我が国のスポーツ政策の変遷について、スポーツの進むべき方向性について学習していく。そして、スポーツを発展させていく上で、組織の在り方、組織運営の在り方について理解する。	1前	16	1	○			○	○			
○			コーチング論1	スポーツ指導者の視点、アスリートの発掘・育成、指導計画、安全管理についての概論を学習していく。スポーツ指導計画の際、安全確保の配慮が重要であることを理解する。	1前	16	1	○			○	○			
○			コーチング論2	選手育成していく上で、選手の評価から指導計画立案、チームマネジメント、情報の戦略化などの重要性を理解する。	1前	16	1	○			○	○			
○			トレーニング科学1	スポーツ指導者として、トレーニングに必要な基礎知識について学習していく。そして、最新の科学的研究成果に基づくトレーニング理論を基盤として、「トレーニング計画」を立案していく。	1前	30	2	○			○			○	
○			保健体育理論1	生涯スポーツトレーナーとして社会貢献するために必要な、スポーツ科学領域【関係法規、保健指導、スポーツ栄養学、スポーツ医学、解剖生理学等】について理解する。	1前	32	2	○			○	○			
○			保健体育理論2	生涯スポーツトレーナーとして社会貢献するために必要な、スポーツ科学領域【スポーツ医学と健康管理、スポーツ外傷と熱中症、メンタルトレーニング、コーチング等】について理解する。	1後	32	2	○			○	○			
○			発育発達論	青少年時期のカラダの各器官がどのように発育・発達時期について学習していく。その中で身体的特徴、心理的特徴、運動プログラム、女性のスポーツの運動プログラム作成に必要な知識を身につけていく。	1後	16	1	○			○			○	
○			スポーツ観戦実習	各種競技種目のルール、道具、用具、外傷と障害の発生機序、トレーニングなどの競技特性を実際の競技映像を見ながら理解する。	1後	30	1			○		○			
○			からだの仕組み	スポーツトレーナーに必要な解剖学（各部位の機能解剖）を学びつつ、実際の外傷と障害の発生機序を理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			体力測定法	体力の概念、各体力要素（筋力、無酸素性持久力、有酸素性持久力、体組成、瞬発力、敏捷性など）の測定法について理解する。	2後	16	1	○			○		○		
○			テーピング・手技療法実習	テーピング（総論・上肢・体幹・下肢）と手技療法（総論・上肢・体幹・下肢）について実習を行い基礎を学ぶ。	1前	30	1			○	○		○		
○			トレーニング指導者理論	トレーナーとしての基礎知識入門（筋肉名称・起始停止・作用・骨・関節）。また、それに伴う各部位の動きを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			トレーナー基礎演習1	トレーナーとして必要な基礎知識(解剖学、スポーツ医学など)について理解する。	1前	30	2	○			○	○				
○			トレーナー基礎演習2	トレーナーとして必要な基礎知識(スポーツ外傷・障害、救急処置など)について理解する。	2前	30	2	○			○	○				
○			スポーツ医学1	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の基礎知識を学ぶ。加齢による身体の特徴を理解させる。体力が身体の健康に深くかかっていることや、スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果などについて理解する。	1前	18	1	○			○			○		
○			スポーツ医学2	骨格筋と神経の仕組みと働きを理解し、基礎的知識を学ぶ。スポーツ活動中に起きやすい一般的な外傷・障害を各部位ごとに理解し、予防法や対処法の理解を深める。	1後	22	1	○			○				○	
○			スポーツ栄養学1	競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法を理解する。	1前	16	1	○			○				○	
○			スポーツ心理学1	スポーツ実施者の行動を、スポーツ心理学の見解をもとに、その本質を特定し、運動技能学習のメカニズムを理解する。これにより、スポーツや運動行動を、科学的・客観的に分析・評価するための基礎的知識を理解する。	1後	24	1	○			○				○	
○			アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーナーについて、その役割(アスレティックトレーナーとは、アスレティックトレーナーの役割、医科学スタッフとの連携・協力、組織運営と管理、アスレティックトレーナーと倫理)を理解する。	1前	30	2	○			○			○		
○			トレーニング科学2	トレーニングの種類や、科学的基礎にもとづいた効果と評価、性、発育・発達、老化、栄養、疲労と疲労回復、環境、オーバートレーニングについて理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			トレーニング指導者実習	スポーツトレーナーとして、安全かつ効果的にトレーニング指導が行えるように、基本的なトレーニングフォーム、指導方法を理解する。	1前	30	1			○	○				○	
○			バイオメカニクス	バイオメカニクスの基本理論(筋の仕組みと働き、筋活動のエネルギー供給など)を学習していく。それらの知識を踏まえ、各運動動作(歩動作、走動作、投動作など)に必要な運動技術について理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			検査と測定の手法1	アスレティックトレーナーが現場で評価をする上で必要となる、姿勢の観察、柔軟性、筋力などの検査・測定と評価について理解する。	2前	20	1	○			○				○	
○			検査と測定の手法2	アスレティックトレーナーが現場で評価する上で必要となる、筋持久力や身体組成などの検査・測定と評価について理解する。	2前	20	1	○			○				○	
○			運動処方論	運動効果と運動不足、トレーニングの原則と効果、エクササイズガイド、有酸素運動の特徴と効果、肥満と運動、糖尿病と運動、高齢者と運動について理解する。	2後	30	2	○			○			○		
○			トレーニング指導者理論2	トレーナーとしての基礎知識(解剖学)をベースに、各競技特性に適したトレーニングメニュー、プログラム作成できる能力を身につけさせる。	1後	30	2	○			○			○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			運動生理学	運動・スポーツによって、カラダにどのような変化が出てくるのかを学んでいく。運動生理学を学ぶことで、体力向上、パフォーマンス向上方法を理解していく。	1前	30	2	○			○			○	
○			運動器の解剖と機能1	運動器の構造と機能や、体幹の解剖や運動について理解する。	1前	20	1	○			○				○
○			運動器の解剖と機能2	上肢の解剖や運動（屈曲、伸展）について理解する。	1前	20	1	○			○				○
○			運動器の解剖と機能3	下肢の解剖や運動（屈曲、伸展）について理解する。	1後	20	1	○			○				○
○			スポーツ栄養学2	選手のコンディショニングにおける、食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアについて理解する。	2後	30	2	○			○				○
○			スポーツ心理学2	スポーツと認知、動機づけ、目標設定、運動の学習、スポーツと発達、競技者の性格と態度、パーソナリティ、メンタルトレーニング、スポーツカウンセリングについて理解する。	2前	30	2	○			○				○
○			救急処置	アスレティックトレーナーとして重要な役割である、緊急時を含めたスポーツ現場での救急処置を理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			救急処置実習	現場での一次救命処置（心肺蘇生・AEDを用いた除細動・気道異物除去・）、またその他の傷害に対する処置（止血・固定・搬送）を理解する。	1後	30	1			○	○				○
○			スポーツ動作の観察と分析	アスレティックトレーナーに必要な評価、各スポーツで必要とされる動作の観察と分析（歩動作、走動作、跳動作、投動作、打動作、蹴動作、滑動作、泳動作、漕動作）について理解する。	2前	20	1	○			○				○
○			コンディショニング1	選手のパフォーマンス発揮に必要なコンディションの把握・管理と調整方法（競技力向上、傷害予防）、競技種目別の特性、外傷・障害予防に必要な環境整備について理解する。	2前	30	2	○			○				○
○			コンディショニング2	アスレティックトレーナーに求められる実技方法（ストレッチング、テーピング、コンディショントレーニング）について実技試験を想定した実践形式の授業を行う。	2前	30	1			○	○				○ ○
○			コンディショニング3	各専門的トレーニングと測定法（スプリントと持久性トレーニング、ウォーミングアップ・クーリングダウン、身体組成・柔軟性評価テスト、アクアコンディショニング）について実践形式の授業を行う。	2前	30	1			○	○				○ ○
○			ジュニアスポーツ理論	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴、子どもたちに対してのスポーツの必要性、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導方法について理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			ジュニアスポーツ実技	子どもの発育・発達期の身体的心理的特徴を理解し、コーディネーション能力を高めるプログラム作成・指導の実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			S A Q トレーニング実習	競技の専門的スキルの基礎、スピード（重心移動の速さ）・アジリティ（運動時に身体をコントロールする能力）・クイックネス（刺激に反応し、早く動き出す能力）を実習にて理解する。	1前	30	1			○	○			○	
○			トレーニング実技	各種マシントレーニング、その他トレーニング器具の使用方法・注意点を理解し、正しいフォームを身につけ、対象者に対し効率的かつ安全にトレーニング指導ができるよう実践授業を行う。	1後	30	1			○	○			○	
○			機能評価法実習	アスレティックトレーナーが現場で評価をする上で必要となる、問診、症状や傷害部位の特定をする目的で行う整形外科的テストを実習を通して理解する。	2前	30	1			○	○			○	
○			アスレティックリハビリテーション1	アスレティックリハビリテーションの定義・概要を学び、アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの基本知識を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーション2	上肢と体幹の外傷に対するアスレティックリハビリテーションについて、傷害部位や身体に悪影響を及ぼし得るリスクを抽出・把握・対策を講じた上でのプログラム作成と実践を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			アスレティックリハビリテーション3	下肢の外傷に対するアスレティックリハビリテーションについて、傷害部位や身体に悪影響を及ぼし得るリスクを抽出・把握・対策を講じた上でのプログラム作成と実践を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ外傷と障害1	アスレティックトレーナーとして、年齢、性差などによって生じるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ外傷と障害2	アスレティックトレーナーとして把握しなければならない上肢・下肢・体幹の主なスポーツ外傷や重篤外傷の特徴を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			スポーツ外傷と障害3	各競技で発生するスポーツ外傷・障害の基本知識を理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			スポーツ医学3	アスリートにみられる内科的疾患、感染症の対応策、海外遠征時の注意点、各競技、年齢・性別による特徴、内科的メディカルチェックについて理解する。	2後	30	2	○			○			○	
○			フィットネスエクササイズ	有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。	1後	30	1			○		○		○	
○			見学実習	アスレティックトレーナーの役割を学ぶため、様々なスポーツ施設、各競技の試合観戦などに出向きアスレティックトレーナーの役割について見学する。	1前	30	1			○		○	○		
○			スポーツ現場実習	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き基礎的な実習を行う。	1前	30	1			○		○	○		
○			検査・測定と評価実習、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	アスレティックトレーナーに必要な検査・測定と評価法ならびにアスレティックリハビリテーションプログラム作成の実習（身体計測、体力測定の実施、競技別ストレッチメニュー作成など）を行う。	1後	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アスレティックリハビリテーション実習	外傷に対するアスレティックリハビリテーションの方法を実習を通して身につける。	2前	30	1			○	○		○		
○			アスレティックリハビリテーション実習2	外傷に対するアスレティックリハビリテーションにおいて、選手の現状を把握したうえで目的に向けたプログラムの立案、指導方法を身につける。	2前	30	1			○	○			○	
○			総合実習1	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き基本的な実習を行う。	2前	30	1			○		○	○		
○			総合実習2	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツ現場に出向き様々なスポーツシーンに対応しながら応用的な実習を行う。	2前	30	1			○		○	○		
○			総合実習3	アスレティックトレーナーの役割（スポーツ外傷・障害の予防、スポーツ現場における救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定と評価、健康管理と組織運営、教育的指導）を様々なスポーツシーンを想定し実習を行う。	2後	30	1			○	○		○		
○			総合演習4	学んだ基礎知識を統合し、スポーツ外傷・障害の評価・応急処置を実技を通して身につける。	2後	30	1			○	○		○		
○			総合実習5	学んだ基礎知識を統合し、選手の傷害状況や競技特性を考慮したうえで、アスレティックリハビリテーションを立案・説明・デモンストレーション・実技指導することを身につける。	2後	30	1			○	○		○		
○			生涯スポーツトレーナー実習	生涯を通じて健康維持と増進を目的に、誰でも楽しく参加できるスポーツ指導の実習を行う。	2前	30	1			○	○			○	
合計				53科目		1,710単位時間(88単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(卒業要件) 全ての授業科目における単位(全88単位)を修得。 (履修方法) 本校に登校した上で、講義、実技、及び実習を履修する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	24週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
  - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。